

大阪大学上海教育研究センターについて



海外交流

末 永 敏 和*

About Osaka University Shanghai Center for Education & Research

Key Words : Shanghai Center for Education & Research

一 はじめに

大阪大学は、サンフランシスコ（米国）、グローニンゲン（オランダ）、バンコク（タイ）に次いで、4番目の世界拠点として、中国に上海教育研究センターを開所し、2010年2月1日から業務を開始しました。私は初代センター長として業務に携わっています。大阪大学では、3・4年前から、中国に拠点を設置するかについて、検討を重ねてきましたが、総長は2008年秋頃、設置を決意し、2009年4月に中国拠点設置準備室を設置し、私が所長に就任しました。そして、それが上海教育研究センターとして結実したわけです。以下は、開所についての案内です。

大阪大学上海教育研究センターの開所について

平成22年2月1日（月）、本学4番目の海外拠点となる上海教育研究センターを開所し、運用を開始いたしました。

大阪大学は、現在、中国の大学・研究機関と8件の大学間交流協定及び41件の部局間交流協定を締結して、積極的に研究者・学生交流を展開しております。更に、G30（国際化拠点整備事業）構想の中で、現在の留学生受入数1,455名を平成25年度に2,000名、平成32年度末には3,000名とし、同時に留学生受入重点国の一つである中国からは、現在の

受入数443名（全体の約3割）を平成32年度末には全体の4割程度とする目標を掲げております。

上海教育研究センターの活動本格化及び全学的利用により中国との国際交流がより一層、推進されるものと期待します。

大阪大学 上海教育研究センター長 末永 敏和
（法学研究科教授）

■上海教育研究センターの概要

○主な業務：

- 1) 中国からの優秀な留学生の受入れ及び本学学生の中国への留学支援
- 2) 中国の大学等との研究交流の支援
- 3) 中国における本学の教育研究上のプレゼンス向上のための広報及び情報収集
- 4) 中国内の大阪大学同窓会の活動支援

○設置場所：中華人民共和国上海市徐匯区淮海西路
55号 申通信息広場22階D座
居室面積 155m²

○現地体制：

センター長：末永 敏和（法学研究科・教授）・・・
月1回～2回の出張で対応
現地スタッフ：姜 曉燕（華東師範大学日本語学科
卒業、日本語検定1級、日常英会話
も可）

※副センター長（事務職員）は、当面、配置を行わず国際部国際連携課職員が月1回の出張で支援を行う。

○業務時間：月曜～金曜、午前8:30から午後5:15
まで（現地時間）

○連絡先：Tel +86-21-6115-2001

Fax +86-21-6115-2003

○大阪大学のホームページ www.osaka-u.ac.jp



*Toshikazu SUENAGA

1947年7月生

京都大学大学院法学研究科中途退学
（1975年）

現在、大阪大学名誉教授（龍谷大学法科大学院教授）、元 大阪大学上海教育研究センター長 法学博士 弁護士 商法・
会社法・金融商品取引法・中国法
TEL：06-6202-2727（法律事務所）
FAX：06-6202-3375（同上）
E-mail：t-suenaga@yglpc.com

二 その後の活動

1 開所後まもなくの2010年3月21日に辻毅一郎理事・副学長を迎え、上海に在住する大阪大学及び旧大阪外国語大学卒業生を招いて、センター内で仮開所式を行い、その後近くのレストランで祝宴を挙行しました。

2 仮開所式のちょうど7ヵ月後の10月21日に、上海センター近くにあるホテル「衡山賓館」において、開所式、講演会、レセプションを行いました。出席者は、中国の大学では、遠くは大阪大学の学術交流協定締結校である、北京大学、西安交通大学、武漢大学の外事弁公室代表者、及び上海の著名大学の学長、副学長、さらには日本のJSPS（日本学術振興会）等、在中国日本教育機関代表、在上海日本国総領事館、大阪府、大阪市現地事務所代表、大阪大学・旧大阪外国語大学OB等、約130名であり、日中関係が微妙な中、予定通り式典を挙行できたのは幸いでした。また、式典には、かつて海外拠点の設置に尽力された4名の名誉教授も日本から招待された。以下、式次第に従って、内容を紹介します。

開所式典では、辻理事・副学長の開会の辞に続き、鷺田清一総長から大学を代表して上海センターの正式開所が宣言されました。続いて、上海センターが出張所の名義を借りており、大阪大学と最も縁の深い中国の大学である上海交通大学のZHANG副学長、及び本開所式を機会に本学と学術交流協定を締結する同済大学のDONG副学長から祝辞をいただきました。祝辞は、引き続き、名古屋大学・渡辺副総長、大阪府上海事務所・田中所長からもいただきました。最後に、平松大阪市長からのメッセージ代読がありました。

次に、開所式記念講演会として、まず、鷺田総長から「大阪大学の原点と未来」と題して講演がありました。ここでは、大阪大学の歴史と未来が分かりやすくかつ力強く示されました。続いて、山内直人・国際公共政策研究科教授から、「相互理解を深めるために一日中共同調査から見た意識変化」と題し、日中間の意識の違いについて興味深い報告がなされました。最後に、斗内政吉・レーザーエネルギー学研究センター教授から、「テラヘルツが拓く新しい架け橋」について講演があり、テラヘルツが将来的に無限の可能性を持っていることが分かりました。それぞれ意義ある講演で、出席者に感銘を与えまし

た。

記念講演終了後、レセプションが開始しました。まず、片山文学研究科長から日中両国語での開会の辞の後、改めて鷺田総長から挨拶があり、その後、上海外国語大学 CAO 学長、華東師範大学 LUO 副学長からそれぞれ祝辞をいただきました。続いて、壇上で鏡開きがありました。さらに、濱口智尋名誉教授の発声の下、乾杯となり、歓談に移りました。しばらくの歓談の後、余興として、上海在住の日本人を中心とするボランティアグループ「和響」による和太鼓演奏が盛大に行われました。最後に、センター長より閉会の挨拶があり、一本締めをして盛会のうちにレセプションは終了しました。

3 翌22日、23日は、上海交通大学において、第15回大阪大学・上海交通大学学術交流セミナーが開催され、鷺田総長など両大学から100名を越える関係者が出席して開会式が行われ、その後各分科会に分かれて熱心な報告・討論が行われました。また、23日午後には、同済大学を総長一行が訪問し、両大学長により、学術交流協定の締結の調印式が行われました。同済大学からは、大阪大学に対して今後の交流について熱いエールが発せられました。

4 23日、24日は、上海東亜展覽館を会場に開催された中国国際教育展に大阪大学のブースを出展し、2日間で100名を越える学生・保護者の留学相談に対応しました。

5 センター長が上海に出張してきたときは、協定大学の外事弁公室への訪問、上海の有力大学への挨拶やこれからの協力関係の構築に向けた話し合いをしています。OB会への出席や大阪市、大阪府、在上海日本領事館広報部等、日本関係の事務所や上海にある日本の大学の出張所（名古屋大学、早稲田大学など）を訪問することもあります。

6 また、上海センター設置と同時に「希平会」（日中高等教育交流連絡会）に加入し、2ヶ月に1度ほど北京で開催される定例会合に出席し、日中間の教育・研究交流に関する情報交換、意見交換を行い、また、中国各地で行われるJSPS主催の日本留学説明会に参加しています。そのほか、去年9月には北京大学と大阪大学の学術交流会が開催され、上海センターがこれを支援するため出席いたしました。同窓会活動の活性化の推進や現地でのネットワーク化の拡充にも努力を払っています。

7 G30では、英語による学部コースが設置されることが義務付けられており、大阪大学も、人文社会系のコースと、理科系のコースが設置されました。これは高校から直接大阪大学への入学を意図したもので、去年12月には上海の有名高校を訪問して、今回は理科系のコース（生物・化学複合メジャーコース）の宣伝を行い、合計50名弱の高校生に直接面会し、今年1月の個人面接には20名弱の高校生に上海センターに来所して貰うことができ、大きな成果をあげることができました。また、その後上海センターでは、人文系コースもあわせ、大阪大学本

部からのテレビ会議による面接も行われました。

三 終わりに

上海センターは設置して1年余ですが、活動も軌道に乗り、内外において徐々に知名度も浸透してきています。これから、よりいっそうその存在価値を高めるため、活動を活発化させようと頑張っておりますので、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。なお、現在の上海センター長は、古川裕・言語文化研究科教授です（4月1日より）。

